

2026年度 医療従事者の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画

| | 関係者 | 項目 | 2025年度末の状況 | 2026年度目標 | 2026年度目標：具体的内容 | 2026年度末評価 |
|---|------------------------|--------------------|--|--------------------------------|--|-----------|
| (イ)外来診療時間の短縮、地域の他の保険医療機関との連携などの外来縮小の取組み | 医事診療サービス部 (外来医事課) | 初診時の問診票の入力削減 | 2026年4月の運用開始を目指して、運用体制の構築と周知を行った | 15歳以上の問診票の電子化実現 | 2026年4月整形外科より運用開始。課題の改善と診療科拡大の推進 | |
| (ロ)院内保育所の設置 | 人事部 | 夜間帯の保育の実施 | 夜間帯保育の実施を継続した | 24時間保育の継続実施 | 継続 | |
| | 人事部 | 病児保育の実施 | 病児保育の実施を継続した | 病児保育の継続実施 | 継続 | |
| (ハ)医師事務作業補助者の配置による医師の事務作業の軽減 | 医事診療サービス部 (医師診療支援課) | 医師事務作業補助者による文書作成補助 | ・作成期限遵守率 平均98.8% ・作成支援率 平均72.9% | 文書作成支援維持と作成期限遵守 | ・文書作成支援維持と作成期限（96%）遵守 ・CocktailAIやCopilot等のIT活用を推進し、効率的な文書作成支援を実施する | |
| (ニ)医師の時間外・休日・深夜の対応についての負担軽減及び処遇改善 | 人事部 | 医師の時間外負担軽減 | 毎月医師の時間外状況のモニタリングを継続。2025年度末のA水準超えは14名となった | A水準での時間外管理を実施 | 4半期ごとにデータをまとめ、状況の確認ならびに対応策を検討する | |
| (ホ)特定行為研修修了者の複数名の配置及び活用による医師の負担軽減 | 看護部 | 特定行為研修修了者 | 特定行為研修修了者20名活動中（+2名受講中） ・創傷・ろう孔管理コース1名終了 ・麻酔科支援者4名（ほか他1名受講中） | 特定行為研修修了者の活用の拡大 | 特定行為の麻酔科支援1名研修中 本年度より、病棟コースを新たに開始する予定。昨年度終了した創傷・瘻孔管理コースの特定行為看護師が現場で実践予定 秋頃から夜間のRST+RRSを開始予定（6月よりPre開始） | |
| (ヘ)院内助産又は助産師外来の開設による医師の負担軽減 | 看護部 | 助産師外来 院内助産 | 助産師外来にて28週-36週は医師と交互に担当でき、37週以降は助産師で対応中 1-2/月の症例対応を行っている | 助産師外来の継続実施 院内助産拡大予定（4-5例/月） | 継続 | |
| (ト)看護補助者の配置による看護職員の負担軽減 | 看護部 | 清拭、洗髪等 患者の見守り | 患者へのケア支援数の増加あり 看護補助者による体動コールやコールマット対応は業務マニュアルを作成し、協力体制づくりができた 技能実習生1期生は準夜勤務可能となった（次年度採用3名） | 看護師との協働の拡大 | 病棟看護のエリア制による協働、看護補助者ともスケジュールの共有や調整を行う 看護補助者との協働による身体拘束の低減、転倒転落の低減、 ナースコール対応時間の短縮 | |